○水豆兒トハ如何ナル植物乎

牧野富太郎

周憲王ノ『救荒本草』ト云フ書ノ卷ノ八ニ水豆兒ト稱スル一草ガ圖說シテアル、今玆ニ其文ヲ抄出スレバ左ノ通リデアル

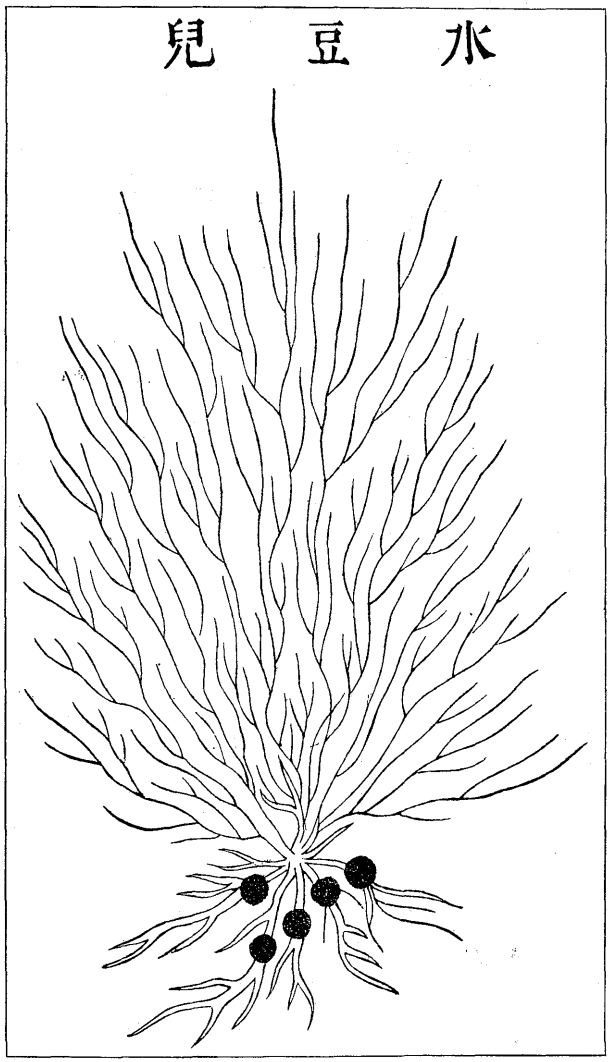
水豆兒　一名ハ歲菜、陂塘水澤ノ中ニ生ズ、其莖葉ヲ菹艸（牧野云フ蓋シえびも歟）ニ比スレバ又細シ、狀チ細線ニ類シテ連綿トシテ絕エズ、根ハ釵股ノ如クニシテ色白シ、根下ニ豆アリテ皮葉ヲ退ケシ豆瓣ノ如シ、味ハ甘ナリ

救飢　秧及ビ根豆ヲ採リ沈ムモノヲ擇ンデ潔淨シ煮食ス、生ニテ醃シ食フモ亦可ナリ（原ト漢文）

右ノ文章ニ伴フタ圖ガアルガ其レハ次頁ニ轉載シテ示シテアル通リ誠ニ得體ノ知レヌ樣ナ頗ル奇拔ナ姿ヲシタモノデアル

扨ドンナ人デモ今此圖ヲ見其文章ヲ讀ンデ直チニ其實物ガ何デアルカヲ言ヒ中テル事ハ隨分ト困難ナ事デアラウト思フ、サレバコソ前ノ學者達ハイロ〳〵ト其的物ヲ模索シテヰタデアラウガ遂ニ何ノ考ヘ當ル事モナク其實物ヲ捉ヘ得ズニ濟ンデ仕舞ッタ、但其中デ彼ノ『本草圖譜』ノ著者ノ岩崎灌園ハ之レヲみづんぼ卽チたぬきも（Utricularia japonica Makino.）ダト斷定シテ同書卷ノ三十一ノ同植物ノ圖傍ニ「水豆兒救荒本草」ト記入シテヰル、灌園ハ水豆兒ノ根部ニ黑色ノ球ガアルノヲ見テ成ルベク其レニ合致サセ樣ト思ヒ右ノみづんぼ卽チたぬきもノ灌園ノ文ニハ「枝の岐に小黑子の如き物あり」ト記シテ之レヲ水豆兒タラシメントあせってヰル事ガ私ニハ看取セラルヽガ然シ灌園ガイクラサウ思ッテモ水豆兒ヲたぬきもトスル事ハ到底事實ガ許サナイ誤リデアッタ事ヲ免ガレ得ナカッタ、私モ始メノ內ハ此水豆兒ガ何ンデアルノカ殆ンド其正體ノ見當ガ附カナカッタ

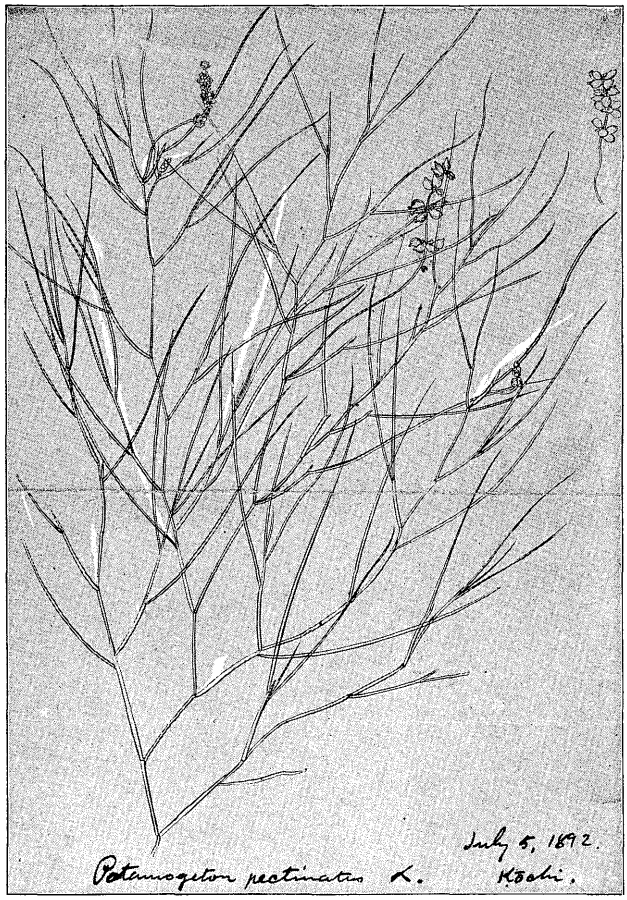
水豆兒



水豆兒（救荒本草）（縮圖）

トコロガ偶然ニモヒョット氣ガ付イテ見ルト是レガひるむしろ科ノりゅうのひげもデアル事ガ判ッタ、卽チ先輩ガ思ヲ勞シ考ヲ費シテモ判ラナカッタモノガ今日始メテ分明トナッタ事ヲ痛快ニ感ジタ、然シ先輩デモ若シりゅうのひげもノ充分ナル豫備知識ガアッタナラ或ハ私ト同樣疾ニ之レヲ同定シ得タデアラウ

此りゅうのひげもハ我邦ニ產スレドモ先輩ハ多分之レヲ知ラズニ過ゴシタデハナイカト思フ、何トナレバ私ノ知ル範圍デハ此草ガドノ書物ニモ書イテナイカラデアル、私ハ始メ今カラ四十七年程モ前ニ之レヲ土佐高知附



りゅうのひげも（Potamogeton pectinatus L.）
（土佐高知附近五臺山村産 5, VII. 1892 寫生）（縮圖）

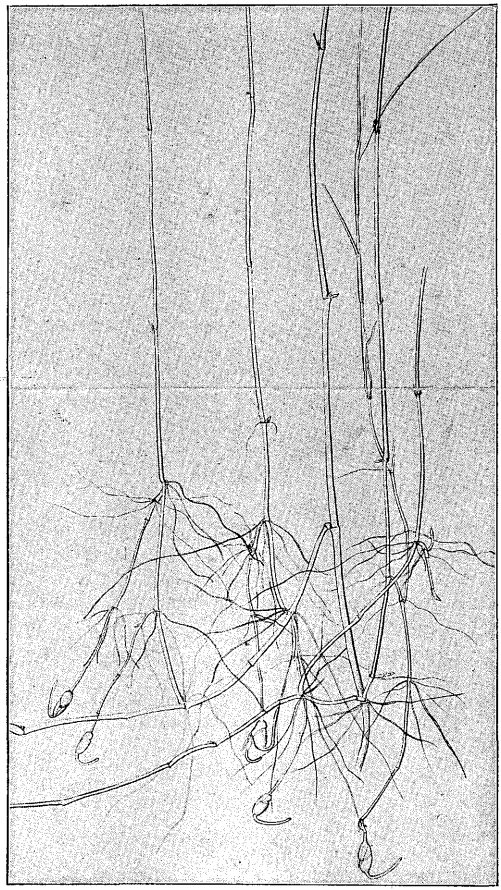
近ノ五臺山村デ採集シ後其莖葉ノ狹長ナル形態ニ基イテ之レニりゅうのひげも（龍の鬚藻）ノ和名ヲ下シ且ツ其學名ヲ知ッタ、更ニ明治二十五年七月ニ土佐ノ同地ノ者ヲ寫生シタノガ此ニ揭出シタ圖ナノデアル（下繪ノマヽニ出ス）

今此圖ヲ見ルト其泥中ニ入ッテヰル地下莖ノ枝端ニ此屬ノ者トシテハ珍ラシク宛カモおもだかノ塊莖ノ如キ小形ノいもガ着テヰルガ普通ノ人、否ナ寧ロ我邦世間ノ植物學者デモコンナ事實ガ此植物ニ在ル事ハ餘リ御存知ガナイカモ知レヌ、私ハ幸ニ此草ニ此いも（圖ニ示ス樣ナ）ノ出來ル事ヲ知ッテヰタノデ其レデ此りゅうのひげもガ水豆兒ニ當ル事ヲ考ヘテ見タ、ソコデ『救荒本草』ノ文章

○斷枝片葉（其五十六）

牧野富太郎

邦デハ通常海ニ近キ堤防內ノ水中ニ生ズルガ又時トシテハ野州日光山ノ湯湖ノ如キ山中ノ湖ニ見ル事モアル（卽チ同湖水デハ湖畔ニ湧出スル溫泉ノ影響ヲ受ケテ爲メニ水ノ溫ンデヰル場處ニ生ズルヲ見ル）、全草沈水シ其葉ノ下部ハ托葉之レニ沿着シ一ノ鞘ヲ成シ莖ヲ包ミヲル特徵ガアル



りゅうのひげも (Potamogeton pectinatus L.)
（同　上）（縮圖）

ヲ翫味シテ讀ンデ見ルト其樣子ガりゅうのひげもニ能ク吻合シテヰルノヲ見受ケル、故ニ私ハ水豆兒ハ疑モナクりゅうのひげもデアルト斷定スル事ヲ躊躇セヌ結果ニ到達シタノデアル

りゅうのひげもハ其學名ヲ Potamogeton pectinatus L. ト云ヒひるむしろ科ノ宿根生水草デ廣ク北亞細亞、印度、北歐、亞弗利加、北米並ニ濠洲諸地ニ分布シ、我